

総合戦略策定に向けたこれまでの取組

1 名寄市まち・ひと・しごと創生本部の設置

(1) 設置日：平成27年2月9日

(2) 構成：本部長 市長 副本部長 副市長、教育長

本部長 総務部長、市民部長、健康福祉部長、経済部長、建設水道部長、
教育部長、市立総合病院事務部長、市立大学事務局長、
健康福祉部こども・高齢者支援室長、経済部営業戦略室長、
総務部財政課長

(3) 会議：第1回 平成27年2月10日

○総合戦略の平成27年中の策定について など

第2回 平成27年4月13日

○地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金について など

2 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）の活用

国の交付金を活用し、次の事業を総合戦略の策定に先行して実施[総額 57,590 千円]

(1) 名寄市総合戦略策定事業[10,000 千円]

○総合戦略を策定するために、必要な専門的調査等の実施

(2) 青空子育て支援事業[3,243 千円]

○多世代間の交流促進など子育て支援の実施

(3) 農産物ブランド確立事業[5,426 千円]

○もち米マイスターの養成や原産地呼称管理制度の導入、もち米関連企業の研修事業の実施

(4) 交流人口拡大事業[28,601 千円]

○新たな観光ルートの検討や移住促進イベントへの出展、冬季スポーツの合宿プログラムの提案などの実施

(5) 企業活動活性化事業[3,579 千円]

○市外からの新規創業、既存店舗の増改築への支援や地場企業が行う展示会・物産展等の参加への支援の実施

(6) 名寄市立大学保健福祉学部再編事業[6,741 千円]

○保健福祉学部再編に伴う広報周知・学生確保活動や教員確保対策の実施

3 意見懇談会の開催

様々な分野の関係団体と意見交換を実施。主なご意見は別紙のとおり

(1) 移住分野

- 実施日 平成27年5月19日、6月17日
- 参加者 名寄商工会議所、風連商工会、なよろ観光まちづくり協会、風連まちづくり観光、名寄建設業協会、J A道北なよろ、名寄自動車学校、トヨタレンタリース旭川、なよろっぼい家づくりの会、その他不動産関係企業

(2) 文化・スポーツ・合宿分野

- 実施日 平成27年5月22日
- 参加者 名寄市文化協会、名寄市風連町文化協会、名寄市体育協会、風連体育協会、名寄振興公社、名寄旅館業組合

(3) 商工・建設分野

- 実施日 平成27年6月1日
- 参加者 名寄商工会議所、風連商工会、名寄青年会議所、各商店街振興組合、名寄建設業協会、風連建設業協会、名寄市技能振興推進協議会、北海道建築士会名寄支部

(4) 市立大学生

- 実施日 平成27年6月18日
- 参加者 市立大学生18名

(5) 農業・林業分野

- 実施日 平成27年6月19日
- 参加者 J A道北なよろ、農協青年部、農協女性部、就農者、上川北部森林組合

4 人口減少対策にかかるアンケート調査の実施

(1) 市民向けアンケート調査

- 実施期間 平成27年6月
- 対象者数 名寄市民4,200名(無作為抽出)
- 内容 結婚・子育てに関する意識、移住・定住に関する意識、名寄市の満足度、人口減少に対する意識 など

(2) 学生向けアンケート調査

- 実施期間 平成27年6月
- 対象者数 1,700名(大学生700名、高校生800名、中学生200名)
- 内容 学生生活に関する意識、卒業後の居住地に関する意識、結婚・子育てに関する意識、名寄市の満足度、人口減少に対する意識 など

総合戦略策定に係る各種関係団体との意見懇談会での主なご意見

農業・林業関係団体	名寄市移住促進協議会
<p>■ 農業後継者</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口が減少=農家減。70歳を越えても経営可能な農業形態を模索中。 (機械のオペレーターなら高齢者でも労働が可能である) 離農により土地が集約され、経営形態が変わってくる。 JA青年部企画の婚活が予定されているが、独身者が多いので、婚活事業を行って欲しい。 <p>■ 雇用・人材の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 繁忙期に短期の人材派遣などの仕組みがあれば規模拡大も可能となる。 (人材不足に対しては、人材バンクのような仕組みがあればいいかもしれない。) 農業作業員の冬季の雇用を、行政・商工会が連携してマッチングできないか。 中国人研修生の人件費一部補助など、行政で検討いただければありがたい。 コントラクター団体の組織などは行政がテコ入れしていただけるとありがたい。 人材不足は一次産業共通の切実な問題である。 <p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 畑作には近年のゲリラ豪雨などの影響が直撃し、被害が甚大である。 人手不足を機会力でカバーし、耕作放棄地を作らないことを検討したい。 遊休地が出てくることを前向きにとらえれば、面積を広げるチャンスでもある。 基盤整備について陳情活動などを行って欲しい。 林業は、山林所有者と働き手の世代交代が必要。 農畜連携は補助事業などを使い、仕組み作りして欲しい。 	<p>■ 移住対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 雇用の確保が必須。雇用増加はまちの活気に繋がる。 農地付きシェアハウスや複数高齢者で就農できる仕組みを検討する必要がある。 高齢者の移住は、サ高住(サービス付高齢者住宅)建設などを絡めてはどうか。 不動産のリフォームを市が補助して短期入居者用の住宅を確保してはどうか。 移住は「若者・高齢者」、「長期・短期」などメインターゲットを分けて考えるべき。 春夏は農作業、秋冬は冬季スポーツを売りにした移住PRがよいのではないか。 官民で空き家バンクやリフォーム助成などを検討すべき。 移住は、女性が納得できるサービスケアやトイレ含め住環境が大切である。 雪を克服する対策や現地の楽しさ、冬の魅力を伝える必要がある。 医療・大学などの基盤を活かし、周辺自治体(特に北部)から求める移住対策が有効。 <p>■ 定住対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業人口の減少を食い止めるためには、農家の所得を上げる工夫が必要。また、農業の法人化も検討が必要となるかもしれない。JAと行政で協議する必要がある。 転出を防止する対策を進めるべきで、製造業や建設業の中小企業を守る雇用対策が必要と考える。移住促進協議会ではあるが、名寄市は定住対策が人口減少に効果的。 高齢者配食サービスや除雪サポートの充実が、移住・定住(転出防止)対策になる。 <p>■ 総合戦略策定・人口減少対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 名寄市には病院・大学・自衛隊といった特徴的なもの(強み)を活かす工夫。 20年30年先を見据えたまちづくりを、人口ビジョンをもとに進める必要がある。 学校統合含め適正な公共施設数の検討をするべきで、コンパクト化は避けられない。 グリーンツーリズムを活用し、将来農業従事者になってもらうための種まきも必要。
文化・スポーツ・合宿団体	商工・建設関係団体
<p>■ 大会・競技会の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ジュニアの大会は保護者・祖父母、引率者が選手数より多くなるため経済効果が大きい。 運営側の人材不足のため、行政が中心となり関係団体から支援を要請する仕組みが必要 大会や合宿の誘致には、各種団体のジュニア育成が不可欠。 <p>■ 合宿誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> 名寄市は他の自治体より、宿泊代が高いことがネックとなっている。 経済効果などを示し、市民の意識喚起が必要(市全体で取り組む姿勢を示す) 合宿誘致を本格的に行うのであれば、宿泊費補助と交通費補助は不可欠。 合宿誘致は、名寄市の環境(自然・施設)、シーズン別にターゲット層の絞り込みが必要。 「歓迎のぼり」「団体名示すボード」などまた来たくなるような対応が不可欠 宿から練習会場までのバスの用意など合宿中の交通環境の配慮も必要。 <p>■ 名寄市の環境と現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国的に見ても冬季スポーツ施設(特にノルディックスキー環境)は整っている。 大会、合宿日程など情報共有がされていない。(情報集約機能の整備) エンレイホールができたことで、文化系団体の発表会などが増える見通し。 <p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 民泊は宿泊補助設備と考えることができる。 旅館業組合に理解してもらい、全市的に推進する必要がある。 中体連も大会地の固定化・聖地化を検討。(日本中体連は大会環境や運営ノウハウ) 	<p>■ 移住対策</p> <ul style="list-style-type: none"> UIターンの受入体制整備を推進する必要がある。 メインターゲットを札幌なのか東京なのかを定めて、戦略を練る必要がある。 名寄市以北からは、病院を求めて移住する人がいる。(医療基盤を活かす移住施策の検討) 道内住みよさランキング上位であることをPRしていく必要がある。 市立病院の機能も合わせて「安心子育てのまち」を前面にだしてはどうか。 田舎志向の階層に対し、土地や畑の提供などを検討してはどうか。 一定期間名寄で暮らす体験を提供する機会を増やす必要がある。(ちょっと暮らしの拡大) <p>■ 定住対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業誘致や移住施策も必要あるが、転出を減らすことが重要である。 地元就職を推進し、人口流出を削減できないか。 少子化問題は、保育園含めて、子育てにお金がかかることも要因である。従って子どもの医療費無償化などを検討してはどうか。 <p>■ 企業誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> 起業支援を充実してほしい。 6次産業化支援を検討してほしい。産業支援・雇用対策に効果的ではないか。 地元就職者に対して、奨学金制度を検討できないか。 <p>■ まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土愛の醸成が、将来的なUIターンに繋がる。 名寄をPRできる地元人材の育成が必要。 アクティブシニアは娯楽教養を求めているので、再教育(リカレント教育)の検討。